

まえがき

本研究資料「麦類で見た消費者・実需者ニーズに対応した我が国の食料供給構造の分析」は、農林水産政策研究所のプロジェクト研究「食料フローモデルの開発・活用等による安定的な食料供給システムの構築に関する研究」（平成 18 年度～平成 20 年度実施）の研究成果の一部として刊行するものである。

このプロジェクト研究では、近年、外国産農林水産物等の安全性や原油価格等の上昇への関心が高まる中で、食料の安定供給の確保や食料自給率の維持向上を図るための消費者・実需者ニーズに対応した国産農林水産物の安定的な供給の取組に資する各般の研究を実施してきた。

具体的には、

- ① 少子・高齢化の進展が食料消費に与える影響を踏まえた我が国の食料消費構造の分析
 - ② 消費者・実需者ニーズに対応した我が国の食料供給構造の分析
 - ③ モデル分析手法の開発・活用により、国際食料需給の変化、食料の消費構造の変化等が国内の食料需給等に与える影響の分析
- の 3 つのテーマに取り組んだ。

「② 消費者・実需者ニーズに対応した我が国の食料供給構造の分析」のテーマの下では、食料自給率の維持向上に資する観点から、麦、大豆、野菜、肉類、水産物等について、様々な統計データや業務データを収集・分析し、流通業者、加工業者、生産者団体等へのヒアリングを行うことで、国内産農産物と外国産農産物との競合・棲み分けの実態について分析するとともに、消費者・実需者ニーズに対応した国内生産を行う上での課題について整理を行った。

本資料は、②の研究成果のうち、特に国内産麦類(小麦、大麦、はだか麦)に対する近年の需要構造の変化と生産・流通サイドにおけるそれへの対応について報告するものであり、4つの報告から構成されている。

「1. 小麦の需要の構造変化と国際価格の高騰の影響を踏まえた国内産小麦の需要拡大について」では、2007 年から 2008 年にかけて起こった小麦の国際価格の高騰を背景とした外国産小麦価格の上昇とその結果引き起こされた国内産小麦の割安感の現出を契機に顕在化した国内産小麦の需要構造の変化および小麦の国際価格の高騰が国内産小麦の需要に与えた影響について分析する。

次いで、「2. 大麦・はだか麦の需要構造と国内産需要の変化を踏まえた国内産大麦・はだか麦の需要拡大について」では、大麦・はだか麦の需要構造の変化および大麦の国際価格の高騰が国内産大麦・はだか麦の需要に与えた影響について分析する。

さらに、「3. 国内産麦の需要に応じた生産拡大のために産地で取り組むべき課題につ

いて」では、国内産麦の生産体制に視点を転じ、産地を類型化し、類型ごとに需要に応じて生産を拡大させていくための課題を分析する。

最後に、「4. 国内産麦の流通実態とそれを踏まえた麦産地での対応方向」では、生産サイドと需要サイドを結びつける流通に焦点を当て、主要産地ごとに国内産麦の流通実態を踏まえた需要拡大のための課題を分析する。

また、「おわりに」として、本研究成果の全体を概観するとともに、今後、取り組むべき研究課題について整理する。

本報告書が、国内産麦類の需要拡大に向けた検討の材料となり、食料自給率の維持・向上に寄与する諸政策の立案に資することを期待したい。

平成 21 年 7 月

農林水産政策研究所

食料フロープロジェクト研究 食料供給構造分析チーム